

(様式1)

自 己 評 価 表

学 校 名 愛媛県立八幡浜工業高等学校

学校番号 37

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点努力目標	基礎・基本の定着と、意欲を持って心豊かに生きる生徒の育成 －思いやる心 自律の心 挑戦する心－ 『ものづくりから人づくり・夢づくり、信頼される学校づくり』 1 確かな学力を身に付けさせる学習指導の推進 2 一人一人を見つめた温かい生活指導の推進 3 個性豊かな人間性の育成と特別活動の充実 4 職業観・勤労観の育成と実践的キャリア教育の推進 5 地域を愛し行動できる人間の育成（ボランティア活動の推進）
------	---------------------------------------------------------------------------------	--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学 校 経 営	教育活動の公開と情報発信	各種「たより」の家庭への持ち帰らせや掲示板への貼り出し、ホームページの内容を充実させることにより、教育活動の情報を発信する。	B	各種「たより」を毎月遅れることなく家庭へ持ち帰らせ、掲示板への貼り出しもできている。ホームページの内容充実にも努力し、年間アクセス数も向上した。地域住民の方々からの評価は高い。	保護者に毎月始めに「たより」が届くことを知っていただき、届かない場合は子どもに催促していただくよう今後ともお願いする。生徒には、保護者に必ず渡すように指導を継続していく。ホームページの内容充実にも今後とも努力する。
	保護者の意見反映	P T A総会や理事会、保護者懇談会への参加率向上を図り、保護者の意見・要望を把握して、学校改善に生かす。	B	P T A総会への出席率は31%で、昨年度より向上した。保護者懇談会への出席率も昨年同様高い数値となった。	P T A役員の方々から各地区ごとにP T A総会への出席を促していただく。総会前の授業参観や、進路ガイダンスの機会を今後とも設けたい。
	図書館環境の整備と充実	読書啓発活動を推進し、生徒希望図書の購入等により、図書館環境の整備に努め、年間一人当たりの図書貸出し冊数3.7冊を目指す。「図書館通信」を年10回発行する。	B	生徒希望図書を毎月購入した。年間一人当たりの図書貸出し冊数は4.6冊、一日当たりの図書館利用者数も目標値を上回った。	朝読書を充実させ、生徒が図書館に来る機会が増えるように、今後も情報内容、発信の方法等を検討し、継続的に読書啓発活動を行っていききたい。
学 習 指 導	教科指導の充実	生徒による授業評価をもとに教科指導の課題について教科会で検討し、授業改善を図る。相互授業研修期間中、一人年間5回以上の授業を参観し、授業力向上に努める。	B	昨年度と同様に教育課程の評価は教職員が3.4、保護者が3.2とまずまずの評価である。授業改善のための校内研修については、教職員が3.3、生徒が2.9である。	教育課程については、学科改編の完成年度を迎え、研究を重ねているところである。今後更に、学習の目標を達成する教育課程になっているのか、どのような成果を得られたのかを検証していきたい。
	基礎学力の向上	定期的な家庭学習時間調査を行い、家庭と連携し、学習習慣の定着を図る。	B	一日当たりの家庭学習時間(平日)は、昨年度から9分増え、目標を大きく上回った。学力の向上に関しては、昨年度と同様であった。	家庭学習時間は年々増えており、いろいろな工夫の効果が表れているものと考えられる。学力の向上に関しては、なかなか形として現れるものではないので、資格取得等と連携した取組を工夫したい。

工業	実践的技術者としての知識・技術	各種資格取得・検定試験合格個数（3年間）6個以上を目指す。ジュニアマイスターの認定（ゴールド・シルバー15人以上）を目指す。	B	資格取得数・検定試験合格個数は6.0、ジュニアマイスター顕彰の認定者数はゴールド13名、シルバー14名である。	2クラスになったため、補習等の実施方法を検討し、合格者数を増やす指導を行いたい。
	ものづくりの推進	ものづくりコンテスト等での入賞を目指す。地域と連携しながら、校内外の「ものづくり」にかかわる行事に参加する。活動の成果に対し、達成感が得られるよう発表会を行う。	A	ものづくりコンテストでは、測量部門が全国大会に出場し、電気技術部がWRO国際大会で金メダルを獲得した。また、ものづくり教室、科学の祭典、各種催しに積極的に参加し、成果を挙げた。	生徒はものづくりに対して積極的に取り組んでいる。本年度は満足できる結果であったので、来年度も継続して指導していきたい。
特別	ボランティア活動の推進	各教室のボランティア活動関係の掲示板を充実させ、参加する意義を教えるとともに意識の啓発にも努め意欲的な参加を目指す。	C	VYS部を中心とした地域行事への参加や、家庭クラブの生徒を中心に行っている独居老人へのバラプレゼントや年賀状、保育園との交流などの活動が地域に根付いており、地域からの評価も高い。	生徒は、交流活動を経験し、充実感を味わい、活動に意欲的である。今後行動に移せるように、情報提供をさらに充実させ、身近なところから活動できるようサポートしていきたい。
	学校行事の充実	充実した生徒会の委員会を10回以上開催し、積極的に参加したくなるような学校行事にする。	B	バラ展には約450名、工業祭には中学サッカー(14校参加)の観戦者を含め約700名の方が来校された。アンケートを配付した地域の約6割の方が今年度も来校されている。生徒会執行部の活動をはじめ専門委員会による取り組みも前向きに行われている。	学校行事に対しては、外部からも高い評価をいただいております。生徒たちの活動が認められている証だと考える。生徒数が減少していくなかで生徒一人一人が主体的に活動していける行事を目指して取り組んでいきたい。工業祭においては工業高校の特徴を生かした取り組みを進めていきたい。
活動	部活動の充実	生徒自ら意欲的に取り組めるような魅力ある部活動にし、部活動加入率95%以上を目指す。	B	今年度も全員の生徒が部活動に所属している。なお部変更した者が8名いた。内訳は運動部178名、文化部98名(兼部者：28名)。レスリング部の総体10連覇をはじめ、電気技術部の世界大会優勝、写真部の高文連優秀賞など活発な活動が成果として現れている。	生徒数減少に伴う課題を精査し、生徒が充実した活動ができる小規模校での部活動の在り方を具体的に考えていく必要がある。また、学習と部活動の両立については生徒・保護者ともに望んでいる。効果的な活動計画を含め課題を明確にして取り組んでいきたい。
生徒	基本的な生活習慣の確立	保護者との連携を密にし、欠席・遅刻・早退ゼロを目指す。頭髪指導を徹底し、高校生らしい身だしなみを心がけさせる。	B	遅刻数は、1年5人6回、2年3人3回、3年3人3回である。頭髪服装については、違反率がやや増加しているが、校内での大きな乱れはなく一定の成果が見られる。	今後も、ホームルーム担任を中心とした個別指導と入室届けの徹底及び5分前登校の奨励を通して、生徒に自覚を促していきたい。また、家庭との連携を密にし、基本的な生活習慣が身に付くよう保護者に協力をお願いしていきたい。
	規範意識と社会性の醸成	交通安全教室、非行防止教室等を通して生徒の規範意識を育成する。校門指導、教科指導、部活動指導を通して挨拶を励行させる。	B	挨拶は一部気になる生徒はいるが、教職員・生徒の評価は高く、校内では良好である。校門指導、教科・部活動での指導の成果が現れていると考える。校外での挨拶や交通ルール・マナーについては、地域住民の評価が依然として低く、一部の生徒について十分な成果が現れていない。	非行防止教室、全校集会等での指導を通して、規範意識を高めていきたい。また、校門指導、登校指導を通して自主的なヘルメットの着用等の交通安全意識を高めたい。これまでの校門指導を中心とした挨拶運動を継続していきたい。

人 権	人権啓発の推進	「人権だより」やその他の啓発資料を通して、人権尊重の意識を高める。 「人権だより」を年10回発行する。	B	「人権だより」などを通じて、生徒の人権意識を高めることができた。特に、全校集会で紹介したいじめが題材の『聲の形』というコミックが図書室で一番貸し出し回数が多い図書となった。 「人権だより」発行回数も目標を達成した。	「人権だより」の内容を生徒と保護者に今年度以上に読んでもらえるよう工夫を重ねていく。また、新しい題材をできる限り見つけ、今年度のようにタイムリーに紹介するようにしたい。
	教育	いじめをなくする取組	C	今年度は、特別指導につながるような事例が1件あった。全体的には、数としては少なく、それ以外では大きな問題は起きなかった。また、いじめを訴えた生徒の話聞き、素早く対処できた。 生徒アンケートは予定通り年2回実施し、教職員アンケートも同じく実施できた。	いじめを訴える件数が少ないのは良いが、いじめに限らず悩み事を訴えやすい環境作りに努める必要がある。正副担任に限らず、気になる生徒がいたら、学校全体で関わっていくように教職員に働きかけたいと思う。
進 路	就職指導の充実	望ましい職業観・勤労観を育成する。 就職試験の1次合格率90%以上を目指す。	B	職場見学や応募前職場見学、マッチングフェア等の行事によって生徒の職業観や勤労観の育成を図ることができた。筆記試験において合格点に達せず不合格となる生徒が発生するなど、まだ目標達成には遠いと判断した。しかし、10月末までに就職を希望する者全員が内定を得ることができたのはよかった。	職場見学、インターンシップ、マッチングフェア等を通して職業観、勤労観を育む。さらに日々の学校生活の中で働くことを自分のこととして真剣に考えるよう生徒個々に働きかける。基礎学力不足が懸念されるので、日々の学習活動の大切さと積み重ねの重要性を理解させ、行きたい企業に1回の受験で合格できるよう学力の向上と定着を目指す。
	指導	進学指導の充実	B	各種模擬試験や補習等で、進学に対する意識付けができ、学力が向上しつつある。一方で、受験校をなかなか絞りきれないなど新たな問題も見えてきた。 しかし、進学を希望する生徒全員が年内に決定し、合格率100%を達成できたのはよかった。	2年次の早い段階から進学希望者に対し、進学する意義や目的を明確に持たせる指導を行い、3年次には明確な志望校の決定と進学に対する目標を持たせる。受験形態の多様化に対し正確な情報を提供し、本人に最も良い入試となるよう指導助言に努め、行きたい学校への合格を目指す。
学 校 保 健	健康管理と保健指導の充実	健康診断結果の的確な把握と適切な指導を行うとともに、具体的な指導を計画し基本的生活習慣の確立を図る。 「保健だより」を毎月1回発行する。	B	健康観察を継続し、欠席理由の把握、感染症予防の徹底を図るとともに、基本的生活習慣の確立を目指した。健康管理や衛生管理について情報発信を行った。また朝食欠食が原因の体調不良者には、個別指導を行った。	課題は冬の感染症予防である。引き続き基本的生活習慣の確立を目指し、生徒自らが考えて行動できるように、保健だよりや掲示物の内容を工夫し、情報発信をしていきたい。また、生徒保健委員会活動による啓発活動の充実を目指し、実践していきたい。
学 校 安 全	安全意識の向上	様々な非常変災に対応できるよう、避難訓練を年3回実施することにより、生徒・教職員の安全に対する意識向上を図る。	B	本年度は（予告なしの防災訓練1回を含め）、6回防災訓練を実施した。生徒・教職員の安全に対する意識は向上してきている。	緊張感を持って訓練を実施することにより、今後とも生徒・教職員の防災に対する意識の向上を図る。
学 校	校舎・校庭・教室の環境	校舎や校庭・教室の美化・整理整頓に努める。	B	校舎内外の美化・整備に努めているが、教育用備品の早期修理が予算の関係で停滞する時がある。	校内美化・環境維持管理の意識を持ち、より良い教育環境になるよう目指していきたい。
行 政	丁寧な接遇の励行	丁寧な来客対応・電話対応に努める。	B	窓口での来校者への対応や電話対応等の達成率が上昇している。	校内で接遇研修を行い、窓口・電話対応と取次ぎをよりよく行えるよう努めたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。